

大好きなファッションで 全国大会に挑戦!

しょうこ・あかね……高校2年生、神奈川県在住

ここに登場する二人の実際の声は、「くりっくにっぼん」で聞けます。

今回登場する二人は、同じ普通科高校のファッション部に所属し、大好きな服作りに熱中しています。そんな二人は、服のデザインや製作技術を競う、高校生のための全国大会「ファッション甲子園」に出場を果たしました。

(「甲子園」の由来は「今日日本」を参照)

关于时装甲子园

时装甲子园(正式名称:全国高中时装设计锦标赛)是以日本全国高中在籍学生为对象的时装设计大赛。它是由日本青森县的弘前工商协会(Hirosaki Chamber of Commerce and Industry)等三家团体,为发展青森县的时装产业及振兴弘前市经济而创办的一项活动,自2001年开始,每年定期举办比赛。

参赛方法是由就读于同一学校的高中生2~3人组成参赛小组,制作时装设计图参加预选。通过预选赛的小组,在设计图的基础上实际制作服装及相关装饰品,并以时装走秀的形式参加在弘前市举办的最终评审会。各小组中的一名成员作为模特,穿上本组的作品在评审会的舞台上表演展示。由时装设计师及新闻工作者等组成的评委会,从设计上及制作技术上评出优秀作品并颁奖。



最终评审会开幕式的场景。从参加预选的日本全国234所学校中选出的40所学校汇聚一堂。题目由各个参赛组自由设定。其中有反映“环境问题”、“新型流感”等现代社会问题的服装以及利用木屑等新型素材制成的创意服装。

Q:ファッション甲子園をめざしたきっかけを教えてください。

しょうこ:ファッション部では、校内で年4回、そして地域で年1回行われるファッションショーに参加し、毎回決められたテーマに沿って服を作っています。例えば、リボンというテーマであれば、リボンの模様の生地を使ったり、アクセサリや服にリボンを付けたりします。

2年生になって服作りに少し自信ができてきたので、ファッション甲子園に応募してみました。ファッション



しょうこ

以前から、服作りがとても好きでした。自分のためだけでなく、友だちのために服を作ってプレゼントすることもあります。



あかね

アクセサリを作ったり集めたりすることが好きです。服作りにも挑戦してみたかったので、高校ではファッション部に入りました。

甲子園のことは何年か前にテレビで知って、おもしろそうだなと思っていました。将来はファッション関係の仕事をしたいため、こういう全国規模の大会で自分の実力を試してみたかったです。



© Fashion Koshien Executive Committee

あかね: しょうこが「一緒に応募しよう」と誘ってくれました。私も出場してみたかったので、声をかけてもらったときは嬉しかったですね。

しょうこ: デザイン画が予選を通過したと知った時は、涙が出て、手が震えるほど嬉しかったです。応募するだけで満足していたし、予選を通過できるなんて思っていなかったです。

Q:最終審査会に向けて、服の製作をどのように進めましたか。また、大変なことはありましたか。

しょうこ: 余裕がないのは嫌なので、最終審査会の数日前までには完成させようと決めました。そのためにスケジュールを立てて、二人で分担して作っていきました。でも、服につける花作りに、予想以上に時間がかかってしまいました。スケジュールがずれて焦ったけれど、あかねが嫌な顔一つせずに、私の分まで縫ってくれました。部活ではたいいて一人で服を作るんですが、今回はあかねと一緒に作ったので、とても心強かったし勇気ができました。

あかね: 夜中に自宅でミシンを使っていると、家族から「ミシンの音が大きくて眠れない」と言われたのが大変でした。ミシンのスピードを上げると、音がうるさくなるんですよ。それで、ゆっくりと縫わなければいけませんでした。結局、最後の2日間は徹夜をして仕上げました。

Q: 最終審査会に出場して一番印象的だったことは何ですか。

しょうこ: 全国から選ばれて集まっている参加者は、意識が高いし、デザインセンスも抜群。服に合わせたメイク、歩き方、ポーズのとり方とかも、とても上手。同じ高校生でもここまでできるんだ、と感動しましたね。

あかね: 今まで経験してきた部活でのファッションショーは、自分の好きな服を作って見てもらうだけでした。自分やモデルだけが満足すればいいと思っていました。でも、ファッション甲子園だと、披露するだけではなく、審査員から評価をされますよね。それによって賞が決まるわけですから。そんな経験は私にとっては初めてで、衝撃的でした。残念ながら入賞できませんでしたが、ファッション甲子園に出場できたことで、たくさんの人に「いいね」と思ってもらえるような服を作りたいと思うようになりました。

Q: 将来は何になりたいですか。

しょうこ: 服の型紙を作る、パタンナーになりたいです。パタンナーは、デザイナーが描いたデザイン画をもとに、実際の服を作るための型紙を作ります。

最終審査会では、審査員から「デザイン画はとてもよかったのに、実際の服は、花の大きさや服の色などがデザイン画と違っていて残念だった」と指摘されてしまいました。このことから、デザイン画に忠実に型紙を作っていくことの大切さを学びました。

あかね: 私は、デザイナーになりたいです。いつか私がデザインした服がパリコレ注や有名な雑誌に出るといいな!

ファッション部に入るまでは一度も服を作ったことがなかったんです。人に聞いたり本を見たりしながら、作り方を覚えました。始めたばかりの頃、袖の作り方がわからなくて、トイレトペーパーの芯を型紙の代わりにしながら、袖の丸みを作ろうとしたこともあります(笑)。試行錯誤しながら、デザインすること、製作すること



布を切り、絵の具で迷彩柄を描いていく。それを一つ一つ縫い合わせ、服に仕上げていく。

との楽しさを知ることができました。そしてこのファッション甲子園での経験によって更に服作りに対する自信ができました。将来も、ずっと服作りに関わりたいと強く思っています。

注: パリ・コレクション (Paris Fashion Week) のことで、年2回、フランスのパリで開かれる服飾ブランドの新作発表会。

ファッション甲子園は、主催者だけではなく、観客あるいはスタッフとして応援する地元の人たちにも支えられています。ファッション甲子園に関わる人たちの声を紹介します。



参加者たちのアイデアの豊富さと、夢に向かって進むパワーには驚かされます。とても同世代とは思えませんし、このような大会に出ることができるとすごいです。私も、ボランティアとしてお手伝いすることで、少しでもファッション甲子園に参加できて嬉しいです。

ボランティアスタッフ (高校3年生、女性)



毎年とても楽しみにしていて、必ず見に来ます。若い人たちの、デザインや色使いなどのアイデアには圧倒されますね。刺激を受けて私も若返りたいです。

地元観客 (50代、女性)



優勝した作品「ナン」ピース
パズルのピースはひとつひとつ違う。それでも他のピースとつながっていく、という「つながり」や「結合」を表現。



このほかの作品は「くりっくにっぼん」に掲載しています。

© Fashion Koshien Executive Committee

わたしの好きなもの



好きなことば

しょうこ: 「仕事を楽しげりゃ人生の半分は楽しいんだぜ」

「リアルクローズ」というドラマで使われていたことばです。私も仕事を楽しむ人生にしたいと強く思っています。

あかね: 素敵に無敵 (=素敵な人は、どんな困難にも立ち向かう力がある)。いつも自分がそうありたいと思うからです。

好きな色

しょうこ: 紫色。特にこれといった理由はないのですが、紫と黄色の組み合わせが好きなので。

あかね: 全部の色! カラフルだと幸せな気分になるからです。